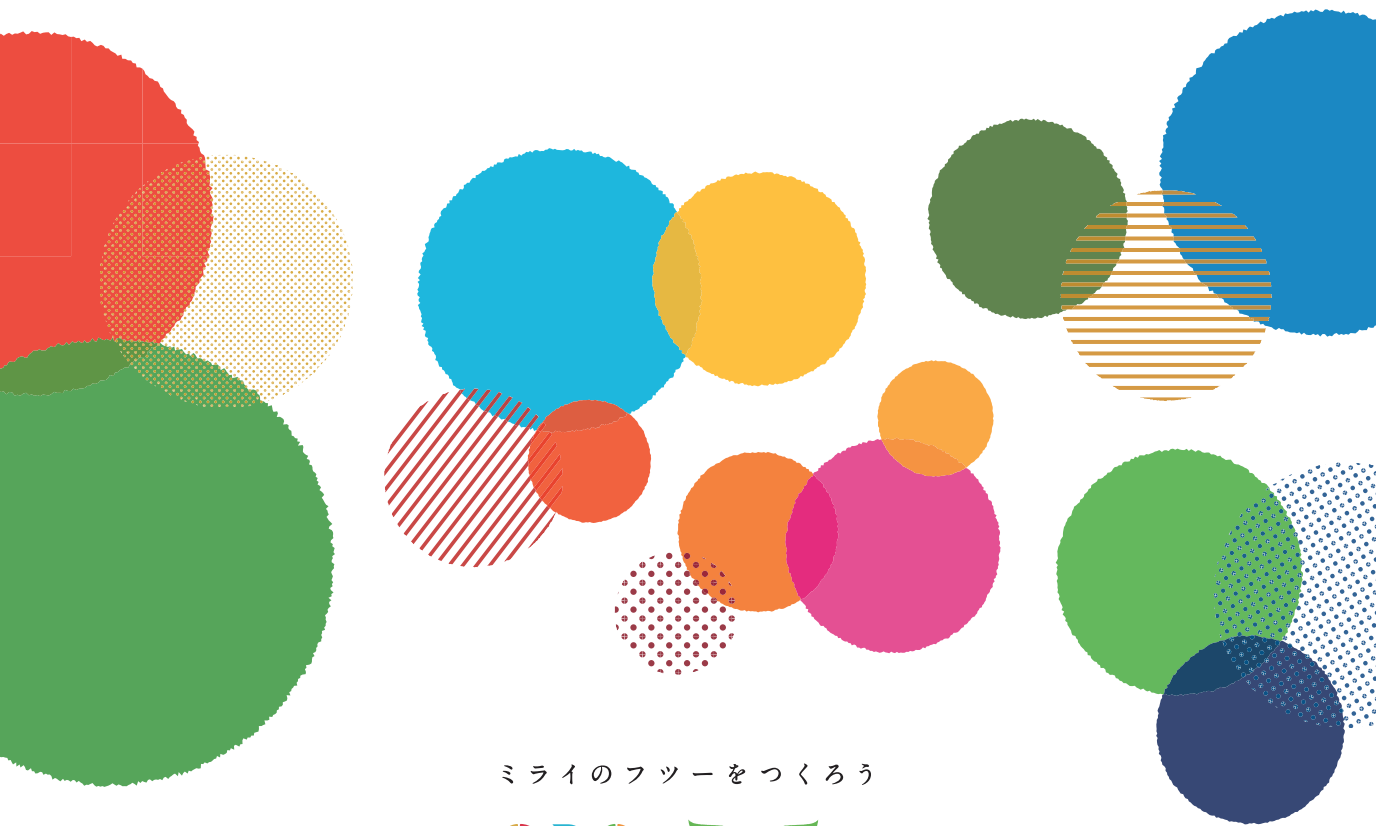


# とよたSDGs グッドプラクティス



ミライのフターをつくろう



未来都市とよた

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」のことで、貧困の撲滅や気候変動対応など、世界が解決すべき課題に関する17の目標と169のターゲットを定めています。SDGsの達成には、一人ひとりが「今、できること」を始めることが大切です。本誌は、SDGs未来都市である豊田市が「今、できること」を実践している企業・学校・団体等の取組を紹介する冊子です。

## 目次

SDGs未来都市とよた	2
3つの重点分野を通じてSDGs達成を目指す	3
とよたSDGsパートナー/豊田市つながる社会実証推進協議会/おいでん・さんそんセンター	4
① こども発達センター「なのはなグループ」Ontenna(オンテナ)試行検証【富士通株式会社 東海支社】	5
② ビストロ スマイリング【株式会社 SMIRING NPO法人 おんぶにだっこ】	7
③ SDGsをツールとした探究学習【愛知県立豊野高等学校】	9
④ 中2と大人がミライを語る会【豊田市立藤岡南中学校】	11
⑤ SAKURAプロジェクト【豊田市役所】	13
⑥ 置き菓子ボックス【オフィスきらり】【株式会社アルディ】	15
⑦ たすけあいプロジェクト【株式会社三河の山里コミュニティパワー】	17
⑧ 中山間地域における超小型モビリティを活用した取組【里モビLIFEプロジェクト推進協議会】	19
⑨ 「うめのいす」「うめのつくえ」など豊田市産材の活用【有限会社 梅村工務店】	21
⑩ 生き物好き集まれ! ミニビオトープを楽しく作って知るSDGs!【一般社団法人ClearWaterProject】	23
⑪ T+CAGO(ティー・カーゴ)【豊田市つながる社会実証推進協議会】	25

# SDGs未来都市とよた

## とよたの目指す将来都市像

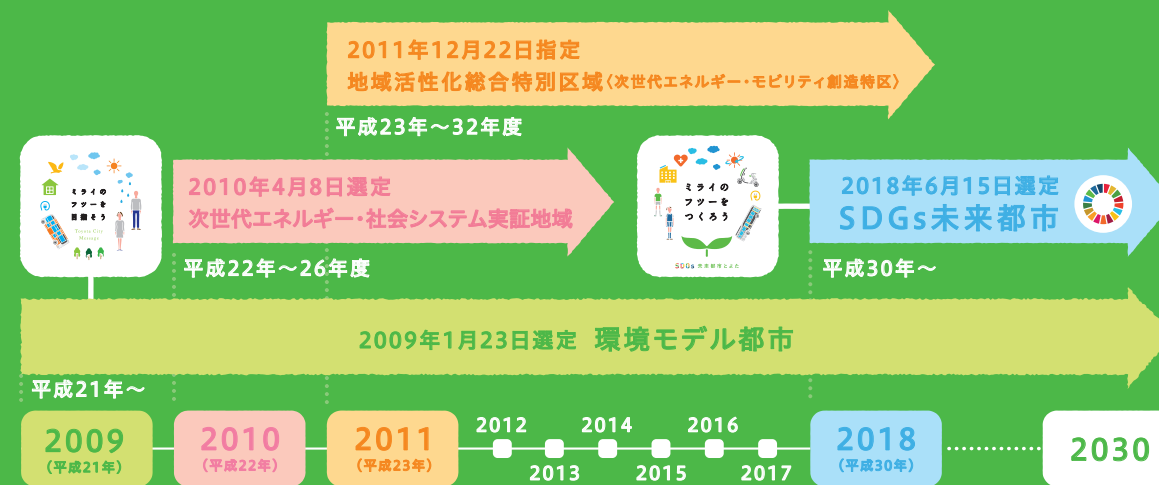
～ つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた ～

人と人、人と地域、自然とのつながりを深め、認め合い、生かし合う中で、多様な価値や可能性をつくりだし、暮らしを楽しむことができるまちをめざします。

## SDGs 未来都市とよた として

「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」の実現に向け、かけがえない自然環境を守り、無理なく無駄なく快適に暮らす「ミライのフツー」を目指してきた豊田市では、さまざまな先進技術や新たな社会システムをかたちにしてきました。そして2018年には、内閣府からSDGs達成に向けた取組をリードしていく自治体「SDGs未来都市」に選定されました。

## これまでとこれから



# 3つの重点分野を通じて SDGs達成を目指す

豊田市におけるSDGs未来都市の活動は、「エネルギー」「モビリティ」「ウェルネス」の3つを重点分野に掲げています。

AI、IoT、ビッグデータなどを活用したスマートシティの実現に向けた取組では、

移動やエネルギー、介護予防などの分野にも積極的に取り組んでいます。

「とよたSDGsパートナー」「豊田市つながる社会実証推進協議会」「おいでん・さんそんセンター」を中心に連携しながら、

SDGs達成に向けてさまざまな活動を展開しています。

## 豊田市におけるスマートシティの構想イメージ



## とよたSDGsパートナー



豊田市は、SDGs(持続可能な開発目標)の達成、持続可能なまちの実現に向けて、豊田市と共に取組等を実施、協力いただける企業・団体等を「とよたSDGsパートナー」として登録しています。豊田市とパートナーが、それぞれの有する資源や知見等を生かし、共に目指すSDGsゴールや豊田市の地域課題の解決に向け、連携し、持続可能な取組や活動を推進するとともに、SDGsの普及啓発を図ることを目的としています。



## 豊田市つながる社会実証推進協議会



市民、企業、金融機関、教育・研究機関、官公庁をつなぎ、新たな技術や社会システムの実証・実装を通じ地域課題解決を推進する協議会です。資源・エネルギーの地産地消、高齢化社会への対応、交通安全の推進などに取り組んでいます。



## おいでん・さんそんセンター



都市と山村の交流をコーディネートし、人と人、地域と企業・団体をつなぐために設立された一般社団法人です。都市と山村それぞれの課題解決、多彩なライフスタイルの実現のサポート、地域の新たな魅力創出の支援などを行っています。



|| 富士通株式会社 東海支社 ||

こども発達センター「なのはなグループ」オンテナ試行検証



主目標

3 すべての人に健康と福祉を

関連目標

4 質の高い教育をみんなに

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

17 パートナシップで目標を達成しよう

最先端のコミュニケーションツールで  
誰一人取り残すことのない学びを

富士通株式会社 東海支社では、2020年9月～2021年3月の期間、豊田市こども発達センターなのはなグループにおいて、難聴児童の療育指導の中で音を振動と光で感じる「Antenna」をコミュニケーションツールとして活用した評価検証に取り組んでいます。「誰一人取り残すことのない学び」の実現に向けたICTによる教育支援活動の一環として、富士通では2019年6月より「Antenna」の体験版を全国のろう学校に無償提供しています。これまで発話やリズム練習の授業、学校生活などで現在広く活用されていますが、難聴児は乳幼児期から早期療育を開始できるかでの後の発達に影響することを知り、まずは乳幼児期の難聴児への効用、評価検証を行うことで、テクノロジーで療育現

場へ貢献し難聴児の発達に寄与したいと考えました。まだ検証中ですが、乳幼児期の難聴児の個別指導で振動、視覚のフィードバックによる音の知覚を促す指導に効用が見込めています。今後は、幼児にも対象を広げ、園内指導だけでなく家庭の中でコミュニケーションツールとしての活用も行っていきます。難聴児の早期発見・早期療育環境は地域格差が大きく、重複や障がい多様化への対応のほか、保護者への子育て支援など療育現場での指導員の業務負担の高さや、人員確保及び育成が喫緊の課題です。今後は検証に協力くださっている経験豊富な指導員のノウハウや知見(暗黙知)を広く共有できないか、療育指導の品質標準化を図れないかと考えています。



担当者の想い

乳幼児期からの聴覚療育指導にAntennaのようなテクノロジーがもたらす身体や感覚の拡張を用いることが当たり前の世の中を実現し、地域の皆さまと一緒にダイバーシティ&インクルージョンの実現を目指していきたいです。

富士通株式会社 東海支社

愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番3号 JRゲートタワー  
<https://www.fujitsu.com/jp/>

|| 株式会社 SMIRING NPO法人 おんぶにだっこ ||  
ビストロ スマイリング



## 高齢者が若者を支えて みんなが幸せになれる食堂を

株式会社 SMIRING、NPO法人 おんぶにだっこでは毎週金曜日の夜、デイサービスを利用する高齢者と介護スタッフ、地域のボランティアさんが料理を作り、共働きで働く地域の主婦の方々に休憩ができる場所を提供しようとコミュニティ食堂を開催しています。

最近では、共働き世帯、1人親世帯が増加し、同社でも子育てをしながら働くスタッフが増えています。その一方で、デイサービスを利用する高齢者の皆さんは、まだまだやれることもあるのに一という想いを抱いていました。高齢者の方は、手作業で色んなことをこなしてきた世代で、手先が器用な人が少なくありません。そこで、子育てママと高齢者が抱える課題を解決する方法として、従来の発想を逆転させ、「高齢者が若者を支える地域」を作ろうと考

えた結果、コミュニティ食堂にたどり着きました。

この取組に参加する高齢者の皆さんは、生活リハビリとして、料理を通じて長時間の立位維持や、包丁を使った手先の訓練を知らず知らずに実行しています。また、料理を食べに来る子連れママたちにとっては、ご飯を作らないでいい精神的な解放感だけでなく、子供たち同士で遊んでくれることでほっと一息つける時間になっています。また、普段接することの少ない高齢者世代と子供が触れあう多世代交流の場にもなっています。

コロナの関係で2020年3月から中止していましたが、2021年4月から「スマイリングキッチンLABO」とリニューアルし、場所を美里地区に移して運営を再開する予定です。



### 担当者の想い

地域が抱える課題、世代ごとに抱える課題、色んな課題をごちゃまぜにしてしまえば解決するかもしれない。いろんな人の少しのおせっかいを応援できる場所、色んな人が安心して入れる場所とされるようにしていきたいです。

株式会社 SMIRING  
NPO法人 おんぶにだっこ

愛知県豊田市中垣内町広畑7-3  
<https://smiring.info/>

|| 愛知県立豊野高等学校 ||

## SDGsをツールとした探究学習



## 高校生たちが、一人一人の行動で 社会を変えていけるんだと実感

愛知県立豊野高等学校では、2020年度から普通科1年生全員を対象とした「SDGs探究型プログラム」を実施しました。このプロジェクトを通して、SDGsの理解に加え、①自分の意見や考えを他者に伝える「協働的に他者と問題解決する力」、②自分の興味や適性を認識する「自分の意志で将来を切り拓く力」、③必要な情報を詳しく調査できる「自分で問い・課題に対して探究する力」を養うことを目指しています。

2020年9月のキックオフでは、SDGsを理解するためのSDGsカードゲームが実施されました。その後、SDGsが掲げるゴールのうちの10個について、チームに分かれて取組を開始し、10月にはとよたSDGsパートナーの登録企業の方が同校を訪れ、生徒に課題を提

示する講話の機会を設けました。最初はSDGsという言葉さえも知らなかった生徒たちですが、さまざまな取組を通じて、SDGsとは何かを徐々に理解し、「一人一人のちょっとした行動で社会は変えていくことができる」と実感し始めています。

1月に行われたゴールごとの発表会で代表チームが選出され、2月には企業から提示された課題に対し、自分たちで調べた情報を交えて、どのような解決策を見いだしたのかを発表する全体発表会を実施しました。

1年次は、企業から提示された課題の解決方法を主体的に考えています。この経験を踏まえ、2年次以降は、自ら問いを立て、情報の収集や整理、分析を進める能力を高めていけるようなプログラムを行っていきます。



### 担当者の想い

取組を始めた当初は「SDGsとは何か」「探究とは何か」を教師もゼロから学ぶ必要があり、議論を重ねる毎日が続きましたが、生徒が変わっていく姿を見ていると挑戦してよかったとやりがいを感じています。

|| 豊田市立藤岡南中学校 ||  
中2と大人がミライを語る会



大人と語り合う場が  
これから歩む人生の活かに

豊田市立藤岡南中学校では、2020年12月1・2日、とよたSDGsパートナー企業・団体の協力を得て、中学生と大人が1対1のペアを組み、「中2と大人がミライを語る会」をオンラインで開催しました。自分の心の充実度を表した「モチベーショングラフ」をもとにして、これまでの人生を振り返りながら、これからどんな人生を歩んでいきたいのかを語り合いました。

大人たちは「仕事」という枠にとらわれず、どのような人生を歩んできたのか、そしてこの先の未来をどう描いているのかを生徒たちに語りました。生徒たちは2日間で、4人～6人の大人たちの人生観に触れ、これから自分が歩む人生について考えること、過去の自分を大切にすること、未来

に向かって今できることに精一杯取り組むこと、失敗しても何度でもやり直すことなどを学ぶ機会になりました。また、初対面かつオンラインの会話だからこそ、将来に対する悩みを素直に打ち明けられたという生徒も多く、ここでの出会いがこれから歩む人生の活力となったようです。本校では今後も、従来から行ってきた職場体験学習とあわせて、引き続き「中2と大人がミライを語る会」のような生きたキャリア教育の実践を進めていきます。そして、とよたSDGsパートナーの輪をうまく活用することで、仕事・職業という概念が目まぐるしく変化するなか、学校の視点だけでなく、幅広い視野を養う機会を提供していきたいと考えています。



担当者の想い

参加者からは、「逆に生徒から力もらった」という嬉しい言葉を頂きました。今後は一方的に知識や経験を受け取るだけでなく、中学生だからこそできる社会貢献について生徒とともに考え、発信していきます。参加して下さった方々に心より感謝申し上げます。また、参加者募集等に尽力して下さった豊田市役所未来都市推進課、オンライン活動の環境を整えて下さった豊田市教育委員会、教育センターの皆様にお礼を申し上げます。

|| 豊田市役所 ||

SAKURAプロジェクト



環境に優しく、災害に強い  
「次世代自動車」という選択

SAKURAプロジェクトでは、車に蓄えた電気を取り出すことができる外部給電機能を持つ次世代自動車(EV、PHV、FCV)を、「走る発電機」として位置付け、環境面だけでなく多角的な視点でその魅力を発信するとともに、災害時の電源としての活用をはじめ、車の可能性を広げる取組を行っています。

豊田市は、2015年から、全国に先駆けて次世代自動車の普及啓発を図る活動として「とよたSAKURAプロジェクト」をスタートしました。2020年9月には、プロジェクト名を「SAKURAプロジェクト」に改め、プロジェクト名称からあえて「とよた」を外すことで、広く市内外に展開できる取組となることを目指しています。また、行政だけの取組ではなく、民間企業や学校と連携し、外部給電機能を「ふやす」「つなぐ」「つかえる」仕組みづくりに挑戦しています。

「ふやす」取組は、次世代自動車の一層の普及促進を目指すもので、地域での出前講座や様々なイベント等の機会を捉え、次世代自動車や外部給電機能の魅力・有効性を伝えています。また、市で

も、公用車への次世代自動車の積極的導入を進めています。

「つなぐ」取組は、多様な給電可能車両を、避難所等における給電需要に対し最適配置するための取組で、企業と連携して、EV・PHV、FCVや大規模な給電が可能な燃料電池(FC)電源車など、必要な支援が必要な場所に届けるためマッチングシステムなどの実証実験を行っています。

「つかえる」取組は、災害時に外部給電機能を確実に使えるようにするための取組で、地域の防災訓練や、小中学校等で実施される防災キャンプで、メーカーや販売店と連携した体験・講習会を行ったり、とよたエコフルタウンでは、停電時を想定して外部給電機能を実際に使ってみる「ブラックアウト体験」を実施しています。また、避難所の照明などに次世代自動車を容易に接続するための設備整備なども行っています。

これからもより多くの企業・学校・団体と連携し、外部給電機能を「ふやす」「つなぐ」「つかえる」仕組みづくりに挑戦していきます。



担当者の思い

豊田市が、環境に優しく災害に強いまちとなるようにプロジェクトを発展させていきたいです。そして「SAKURAプロジェクト」の取組を全国へ、さらに世界へと広げていくのが目標です。



|| 株式会社アルディ ||  
置き菓子ボックス [オフィスきらり]



主目標

8

働きがいも  
経済成長も



関連目標

3

すべての人に  
健康と福祉を



10

人や国の不平等  
をなくそう



17

パートナーシップで  
目標を達成しよう



障がいのある人が  
働きがいを持てる社会へ

株式会社アルディでは、「誰もが生きがいを持って暮らせる地域社会を実現する」という想いのもと、障がい者支援施設で作られたお菓子を1個100円で購入できる置き菓子ボックス「オフィスきらり」を展開しています。2020年12月現在、愛知県豊田市内の交流館などの公共施設、自動車製造に関わる企業を中心に、市内各所に約70台設置されています。2020年3月末まで、豊田市駅前松坂屋9階に「アンテナショップきらり」として障がいのある方々が作った商品の販売場所がありました。ただ、年々来客数が減少し、売上が伸びず、障がいのある方々の工賃への反映が難しい状況でした。そこで、地域の人々に障がい福祉を知ってほしい、気軽に障がい福祉で作られた商品を購入

入してほしいと思い、2018年6月から置き菓子ボックスの「オフィスきらり」の運営を開始しました。「オフィスきらり」の設置をきっかけに、障がい福祉に興味を持つ企業との繋がりができ、お菓子の詰め合わせセットの注文や、公園清掃、内職といった新たな仕事の受注にも繋がりました。また、取り組み内容が高く評価され、2020年度のグッドデザイン賞を受賞しました。「オフィスきらり」が目指しているのは、全国の障がい者支援施設でも実施できる仕組みにすることです。在庫管理システム、補充方法、集金方法など、置き菓子ボックスの仕組みをパッケージにし、全国の障がい者支援施設へ横展開できる仕組みにしたいと考えています。



担当者の想い

オフィスきらりの活動を通じて、障がい者支援施設で働いている障がいのある人と地域の人、企業を繋ぎ、障がいのある人の工賃向上と、誰もが生きがいを持って暮らせる地域社会の実現を目指していきたいと思っています。

株式会社アルディ

愛知県豊田市乙部ヶ丘三丁目1番地8  
<http://aldi.co.jp/>

|| 株式会社三河の山里コミュニティパワー ||  
たすけあいプロジェクト



主目標



関連目標



電力小売事業で得た利益で  
地域の高齢者サービスを守る

株式会社三河の山里コミュニティパワーは2019年、足助・旭地区で行われてきた高齢者支援事業「たすけあいプロジェクト」の継承と合わせて、様々な山村地域の課題解決を進めていけるようにと「地域電力」の仕組みを活用して事業を開始しました。電力小売事業の利益を地域の課題解決に投資することで、持続可能な地域づくりに貢献する取組です。

高齢者の「健康見守り」「移動支援」「お出かけ促進」を行う「たすけあいプロジェクト」。そのねらいは、親子のつながりや地域住民同士の支えあいを深めていくこと。そして地域全体で一人ひとりの健康寿命を延ばしていくことです。このプロジェクトの柱のひとつが、高齢者の移動支援を行う「たすけあいカー」です。地域のボラ

ンティアドライバーの方々に高齢者の移動を協力いただいています。その予約の成立(マッチング)には情報通信システムを活用しており、高齢者にはタブレット内にある簡易アプリをご利用いただきました。

2020年には、タブレットの使用に抵抗をお持ちの方々やタブレットの使用が十分にできない高齢者にも移動支援サービスをご利用いただけるようにと、電話でも移動の申込み予約ができる新メニュー「事務局に電話プラン」を創設しました。

今後も誰一人取り残さないサービス展開を心がけながら、地域電力の仕組みを活用して様々な地域の課題解決に努めていき、持続可能な山村づくりに寄与したいと思えます。



担当者の想い

今後は、この仕組みを必要としている他地域にもサービス提供できるような体制を構築していく考えです。地域に住んでいる皆さんのニーズにしっかりと応えできるよう、これからも努力していきたいと思えます。

株式会社三河の山里コミュニティパワー

愛知県豊田市岩神町仲田20  
<https://my-power.jp/>

|| 里モビLIFEプロジェクト推進協議会 ||

中山間地域における超小型モビリティ(通称 里モビ)を活用した取組



主目標



関連目標



超小型のモビリティを活用して  
高齢者の「運転寿命」を伸ばす

地域住民が主体の組織「里モビLIFEプロジェクト推進協議会」では、2019年4月から、地域住民自らが超小型モビリティ「コムス」を中山間地域に適した仕様に改造し、日常の移動用として活用することで、超小型モビリティの有用性や移動支援の可能性について検証するプロジェクトを行っています。

この取組は、容易に移動することができる超小型モビリティを活用し、高齢者の外出を促進することで、QOLの向上や健康寿命を延伸し、持続可能な地域づくりを目指すためにスタートしました。取組を通じて、高齢者の外出率が増加し、特に食事等の外出、友人知人宅の訪問、寄り合いや地域活動への外出が増えています。

また、高齢者運転の新たな手段、超小型モビリティを使

用する先進的な取組として全国からたくさんの方が視察に訪れています。国土交通省主催の「地域と共生する超小型モビリティ勉強会」においても「里モビ」の取組を説明し、法整備に向けたロードマップ策定にも寄与。「令和2年版交通政策白書」にも注目事例として掲載されました。また、経済産業省の「多様なモビリティ普及推進会議」においても里モビの取組を紹介し、補助金の創設などの普及促進に寄与しました。

今後は、最高速度を30km/hに制限する改造を行った「里モビS」を活用した「安全・安心なモビリティライフ」の提供に向け、企業版ふるさと納税等の制度も使いながら持続可能な取組として展開していく予定です。



担当者の想い

住民が健康で持続可能な地域を作るためには、自分で運転できる期間を長くすることが大事です。より安全な「里モビS」に乗ってもらい、運転寿命を延伸することで、持続可能な地域づくりを行ってまいります。

里モビLIFEプロジェクト推進協議会

愛知県豊田市旭八幡町堂山432-3  
<https://tyev.jimdofree.com/>

|| 有限会社 梅村工務店 ||

「うめのいす」「うめのつくえ」など豊田市産材の活用



イスや机のDIYキットを通じて  
豊田の森を知るきっかけに

有限会社 梅村工務店では、コロナ禍のステイホーム期間中、おうちかんを楽しんでもらうための企画として、豊田市産材を使ったイスや机のDIYキットをプレゼントしました。対象は、学校や幼稚園・保育園が休みになってしまった子供たち。「出かけなくてもおうちでのしくすごせるよ」ということ、「豊田市にも森と木があり、それに守られて私たちは安心して暮らすことができるんだよ」ということが伝えたくて始めました。

2020年4月、愛知県にも緊急事態宣言が発令され、行き場のない気持ちをたくさんの方が抱えていました。それは、大人だけでなく学校や幼稚園・保育園に行けなくなった子供たちも同じです。そこで同社では「少しでも笑顔になってほしい」と企画を始めました。材料の豊田

市産材の板は、小屋を作った端材でした。「お金をかけずにいま私たちにできることを」という気持ちでアイデアを形にしました。

スタッフの皆さんは、イスや机をプレゼントした人たちから届く笑顔の写真とメッセージに、逆に励まされたと言います。この企画をきっかけに、同社では「できないことではなく今できることを考える」という体制ができあがり、どんな人が何に困っているのか考えることの大切さ、想いが届き、喜びを共有することの素晴らしさを改めて知る機会になりました。これらの気づきが企業活動を行う上でとても大切なものだと感じ、スタッフ全員で気持ちを共有できたことは、会社として大きな成果だったと感じているそうです。



担当者の想い

当社の「うめのいす」「うめのつくえ」は、豊田市のふるさと納税の商品にも選定されています。今後も地元とのつながりを大切にし、地域社会に頼りにしていただけるよう、さまざまな活動をしていきたいと考えています。

|| 一般社団法人ClearWaterProject ||

生き物好き集まれ! ミニビオトープを楽しく作って知るSDGs!



ビオトープで起きた出来事が  
自然環境を考える生きた教材

2020年10月3日、豊田市エコフルタウンのパピリオン内プロジェクトゾーンにおいて「生き物好き集まれ!ミニビオトープを楽しく作って知るSDGs!」というイベントが開催されました。水の中の生き物が豊かな生態系を作り、お互いに作用し合っていることを楽しく学べるのが「ミニビオトープづくり」の魅力です。一般社団法人ClearWaterProjectは、「子どもたちが目を輝かせて飛び込んでいくような川、海、湖を未来の世代に」「豊かな水辺環境、水辺文化を創造する」ことを目指す団体です。自然環境に慣れ親しみ、興味関心を持った子どもたちが未来を担えば、それぞれの活躍の場で直接、間接的に自然環境に良い影響を与えるはず。そこで、子どもたちにそんな体験をしてもらおうと考

え、本プログラムを実施しています。また、一過性のイベントで終わらず、学びや感動が生活の中で持続するよう、持ち帰りのできるミニビオトープを題材としています。プログラム終了後、何組かの親子から質問がきました。「室内で殺虫剤を使用したために生き物が死んでしまった」といった内容でした。生き物が死んでしまったのはミニビオトープに起こったことですが、これは自然環境で起こっていることのミニチュア版です。殺虫剤が原因で生き物が死んだという事実は、農業や化学物質による水の汚染そのもの。このように、ミニビオトープというミクロな視点が、自然環境というマクロな視点へとつながることで生きた学びの教材となっています。



担当者の想い

SDGsを通じて自然や生き物を大切にすることは、人間を大切にすることに他なりません。弊社ではこうしたSDGsの精神を伝えることをゴールに設定しつつ、今後も小学生向け生き物環境学習を実施していきたいと思っています。

一般社団法人  
ClearWaterProject

愛知県名古屋市中天白区塩釜口2-1403 アーバンドエル塩釜口703  
<https://clearwaterproject.info/>

|| 豊田市つながる社会実証推進協議会 ||  
T+CAGO (ティー・カーゴ)



環境にやさしい超小型モビリティで  
あらゆるものをスムーズに届ける

豊田市では、「SDGs×新しい生活様式 ミライのフツーをつくるプロジェクト」の第1弾として市民から寄せられた「お困りごと」の中から、デリバリーのニーズに対応するプロジェクトとして、超小型モビリティ「TOYOTA i-ROAD」を活用したオンデマンド配達の実証実験を行っています。コロナ禍における新たな生活様式の推進を図ることを目的に、まずはフードデリバリーからスタートしました。とよたエコフルタウンを発着拠点とし、豊田市駅の半径約5kmを配達対象範囲に定め、ユーザーの店舗選択、注文、受注、支払い、配達までをスマホアプリで一括管理しています。今後は、様々なモノを店舗から市民の皆様にお届けする物流サービスの実用化に向けて実証を行っていく予定です。

不要不急の外出を控える状況から、デリバリーへのニーズは大きくなっており、ランチ・夕食ともに多くの方にご利用いただき、登録会員数は1,000人以上になりました。参加店舗の方からも、T+CAGO含むデリバリーサービスの売上が全体の10%以上を占め、「参加して良かった」という声が寄せられています。デリバリーの配車管理には、豊栄交通様のタクシー配車管理のノウハウが活かされており、スムーズな配達につながっています。今後は、より多くの方に利用してもらい、市民にも飲食店にも嬉しい取組になるよう、仕組みのさらなる改善を行っていきます。また、新しい生活様式の推進のため、様々なモノを店舗から市民の皆様さまに届けられる取組を考えていきます。

担当者の想い

市民の皆様さまから寄せられた「困った」を解決するため、「クルマ」「運転」「料理」など、沢山の「強み」を集めて頑張っています。この苦境をうまく乗り切り、皆さんが嬉しくなるような取組に育てていきたいです。



フードデリバリーサービス  
ご注文はこちらから

豊田市つながる社会実証推進協議会  
(豊田市、豊田商工会議所、豊栄交通株式会社)


<https://c-cago.com/>





**UD FONT**

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

発行  豊田市企画政策部 未来都市推進課

2021年3月